

2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月9日

上場会社名 株式会社モスフードサービス 上場取引所 東
コード番号 8153 URL <https://www.mos.co.jp/company/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 栄輔
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営サポート本部長 (氏名) 川越 勉 (TEL) 03-5487-7371
四半期報告書提出予定日 2024年2月9日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	70,550	9.9	3,538	282.1	3,825	227.4	3,104	240.6
2023年3月期第3四半期	64,197	8.6	925	△70.5	1,168	△64.4	911	△70.5

(注) 包括利益2024年3月期第3四半期 5,217百万円(182.1%) 2023年3月期第3四半期 1,849百万円(△47.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	100.65	-
2023年3月期第3四半期	29.55	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	81,266	52,419	64.2
2023年3月期	74,479	48,091	64.3

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 52,163百万円 2023年3月期 47,855百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	14.00	-	14.00	28.00
2024年3月期	-	14.00	-	-	-
2024年3月期(予想)	-	-	-	14.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	92,000	8.2	3,700	-	3,900	995.2	2,400	-	77.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 -社(社名) - 、除外 -社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	32,009,910株	2023年3月期	32,009,910株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	1,163,184株	2023年3月期	1,169,482株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	30,843,786株	2023年3月期3Q	30,837,072株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う経済活動の正常化が進んだほか、インバウンドの戻りもあって外食需要の回復が見られました。一方で、物価高騰による消費者の生活防衛意識の高まりに加え、急激な為替変動や物流費およびエネルギー価格の高騰等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、基幹事業である国内モスバーガー事業においては、重点施策として粗利の改善、販管費の抑制を徹底し、利益確保に取り組んでおります。海外事業では、コロナ後の人流の変化に対応して、既存店の強化に努めるとともに、不採算店舗の閉店や本社経費の抑制など、収益性の改善に継続して取り組んでおります。

また、ESGの観点から当社グループのマテリアリティ（重要課題）を、①食と健康、②店舗と地域コミュニティ、③人材育成と支援、④地球環境の4つに定め、事業活動を通じて社会に向けた価値創造に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高が705億50百万円（前年同四半期比9.9%増）、営業利益35億38百万円（同282.1%増）、経常利益38億25百万円（同227.4%増）となり、最終損益は主に投資有価証券売却益が増加した一方、利益の増加に伴い税金費用が増加したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益31億4百万円（同240.6%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

<国内モスバーガー事業>

国内モスバーガー事業では、お客様のニーズに合わせた商品・マーケティング展開に加え、お客様との接点を強化するため、積極的な出店や地域に密着した店舗運営を推進しております。当第3四半期累計期間の既存店売上高は105.4%と前年を上回り、順調に推移しております。

モスバーガー既存店および全店実績（2023年4月～12月）（前年同四半期比）

既存店売上高	既存店客数	既存店客単価	全店売上高
105.4%	99.4%	106.0%	107.9%

① 商品・マーケティング施策

当年度は、「家族みんながワクワクする、モスらしい感動体験」を提供することをテーマに、ブランドキャラクターとして女優・永野芽郁さんを起用し、「おっ！MOS品質」を合言葉に、“おいしさ”と“あんしん”へのこだわりと創業以来守り続けている「MOS品質」を訴求しております。

当第3四半期連結会計期間においては、昨年販売し好評だった「一頭買い 黒毛和牛バーガー」をリニューアルし、11月から販売いたしました。第1弾として発売した「一頭買い 黒毛和牛バーガー シャリアピンスソース～トリュフ風味～」は、好調な販売が続き、一部店舗では当初の予定より早く、第2弾の「一頭買い 黒毛和牛バーガー 特製テリヤキソース～ゆず胡椒風味～」に順次切り替えました。

クリスマスから年末年始のシーズンに向けた話題喚起策として、TVアニメ『ONE PIECE』とコラボレーションした「モスチキン」キャンペーンや「2024 モス福袋」を数量限定で販売いたしました。

地域密着の取り組みとしては、東海出店50周年の感謝を込めた記念商品「みそカツバーガー 八丁味噌使用」「みそカツライスバーガー 八丁味噌使用」を地域・数量限定で販売いたしました。

また、地域の生産者応援企画として、シロップに高知県産の柚子を使用した「ゆず&レモン ジンジャーエール」を期間限定で販売いたしました。

今後も地域に密着した社会貢献活動に積極的に取り組むとともに、各地域の名物や特産品を使用した地域密着型のメニュー開発に取り組んでまいります。

② 店舗施策

これまで未開拓であった、都市部の住宅地近接のコンパクトな物件等、多様な立地に適した店舗づくりを推進いたしました。また、キッチン設備や機器を充実させ、省力化を図ったほか、コロナ禍で短縮していた営

業時間の延長に引き続き取り組みました。

出退店実績（2023年12月末時点）

（2023年3月末比）

出店	退店	店舗数	増減
24	11	1,305	+13

③ デジタル技術の活用

デジタル技術を活用し、C X（お客様の体験価値）とE X（社員や店舗メンバーの働きがい）の向上を目指しております。人手不足の対応として、フルセルフレジやソフトコール、番号表示パネル等、IT技術を活用した店舗づくりを引き続き推進いたしました。お客様の利便性向上に向けた対応としては、レジに並ばずにスマホで注文するテーブルオーダーや、パーキングオーダーを試験的に導入いたしました。さらに、予約販売が定着してきたクリスマス時期のモスチキンパックや福袋において、ネット予約の使い勝手を改善し、ストレスなくご購入いただける仕組みを導入いたしました。

④ ESGへの取り組み

モスグループの各事業を通じて社会課題の解決に貢献するために、環境・社会・ガバナンス（ESG）の観点から4つのマテリアリティ（重要課題）を特定し、サステナビリティ経営を通じてさらなる企業価値の向上を推進しております。

主な取り組み（2023年4月～12月）

モスバーガー店舗で着用するコスチューム変更	従業員の「働きやすさ」を追求し、快適さ、機能性と着心地の良さを重視したコスチュームに変更。
コールドドリンク容器を紙製に変更	コールドドリンクのカップをプラスチック製から紙製に変更。これにより、1年間で約670トンのプラスチック削減見込み。
モスファーム熊本で非食用米の本格生産開始	モスバーガー全店で使用する「ライスレジン(R)」（国産非食用米を25%配合したバイオマスプラスチック）製のテイクアウト用カトラリー（スプーン、フォーク）1年分をモスファーム熊本で賄うことが可能。
「新潟MOSごと美術館2023」開催	障がいのある方の社会参加支援を目的に、新潟県にお住まいの障がいのある方々が描いたアート作品をモスバーガー店舗で展示。
温室効果ガス排出量を5%以上抑えて作ったレタスを広島県内のモスバーガーで使用開始	農林水産省が推進している『温室効果ガスの「見える化」ラベル』を、広島県内のモスバーガー店舗内に掲示するとともに、温室効果ガス排出量を5%以上抑えて生産しているレタスを「テリヤキバーガー」などレタスを使用するすべてのメニューに使用。
広島市内の店舗で分身ロボット「OriHime」が接客	子育てや介護、身体障がいなどの社会的ハンディキャップにより外出困難な方の分身として、店舗勤務を可能とする分身ロボット「OriHime」を広島市内の店舗で実験導入。これまでに「OriHime」は「モスバーガー原宿表参道店」で導入しているほか、福岡県や北海道の店舗でも実験導入済み。
第24回グリーン購入大賞で優秀賞を受賞	国内モスバーガー全店舗でのエコマーク認定取得など「環境に配慮した飲食店」実現への取り組みが評価され、第24回グリーン購入大賞において、優秀賞（農林水産特別部門）を受賞。

⑤ 新たな事業展開

モスブランドを活用した新たな事業を展開するマーチャンダイジング事業では「モス公式オンラインショップ～Life with MOS～」内に、「モスライスバーガー専門店」を8月よりオープンしました。海外モスバーガー店舗で実績のある商品をアレンジした「モスライスバーガー <ガパオ>」などに加え、11月には新たに「モスライスバーガー専門店」オリジナルの新商品として、「モスライスバーガー<韓国風ピリ辛ポーク>」の販売を開始いたしました。

今後も海外店舗の限定商品や、国内店舗で過去に人気だった商品の復刻、オリジナル商品の開発など、モスライスバーガー専門店ならではの商品を取り揃え、ブランドの価値向上とともに、新たな収益源へと育ててま

います。

以上の事業活動の結果、国内モスバーガー事業の売上高は558億2百万円(前年同四半期比10.1%増)となり、セグメント利益(営業利益)は48億60百万円(前年同四半期比100.8%増)となりました。

<海外事業>

海外事業では、日本の食文化を大切にしたい定番商品に加え、現地の嗜好を取り入れたローカライズ商品を販売するなど、地域に根差した店舗展開を進めております。また、商圈の変化および人流の変化に対応して、不採算店舗の閉店や管理コストの抑制など収益性の改善に取り組みました。積極的にスクラップ&ビルドを実施した結果、一部地域では店舗を減少させておりますが、全体では、1店舗増の456店舗となりました。

なお、海外事業に属する関係会社の当第3四半期連結会計期間は2023年7月から9月であるため、同期間の情報を記載しております。

① 主要な連結子会社(香港、シンガポール、魔術食品工業(食品製造))

シンガポールでは、不採算店舗の見極めと整理、物流コストと本社経費の削減に取り組みました。原材料費の高騰を背景に、7月から一部商品において価格改定を実施し、価格の適正化に取り組んでおります。

香港では、本社経費の削減、調達の工夫による原価率低減を図りました。不採算店舗については、サービス向上と収益性の改善に向けて個店別に対策を講じております。また、7月に一部商品において価格改定を実施し、来店客数の維持と客単価上昇による収益性改善に取り組みました。

海外店舗の主要な食品の製造を担う台湾の魔術食品工業では、収益性の改善や新たな販路開拓に取り組んでおります。

② 主要な関連会社(台湾)

台湾では、海外からの観光客の増加や国内旅行の活性化を背景に、飲食店への需要が高まっております。一方で、鶏肉など原材料価格が徐々に上昇していることから、コストの見直しなどに取り組んでおります。

(2023年9月末時点、増減:2022年12月末比)

国・地域名	台湾	シンガポール	香港	タイ	中国
店舗数	304	45	47	29	6
増減数	+2	△4	+2	+3	0
国・地域名	オーストラリア	韓国	フィリピン	インドネシア	合計
店舗数	3	15	7	0	456
増減数	0	0	0	△2	+1

以上の事業活動の結果、海外事業の売上高は125億74百万円(前年同四半期比9.7%増)、セグメント利益(営業利益)は0百万円(前年同四半期はセグメント損失1億57百万円)となりました。

<その他飲食事業>

その他飲食事業は、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻りつつあります。新たな施策として、紅茶専門店「マザーリーフ」と株式会社ドウシヤとの初のコラボレーション商品「マザーリーフ監修 さくさくミニクワッサンラスク ロイヤルミルクティー風味」を12月より順次、全国のスーパー、小売店などを通じて発売し、「マザーリーフ」の認知度の向上とブランディングの強化を図りました。

引き続き、商品力の強化、サービス品質の向上、テイクアウトやデリバリーの拡大を図り、収益力の改善を進めてまいります。

(2023年12月末時点)

事業	事業の内容	店舗数
マザーリーフ	スリランカの茶園直送の紅茶とアメリカンワッフルを提供する紅茶専門店	12
モスド	モスバーガーとミスタードーナツとのコラボレーションショップ	1
モスプレミアム	グルメバーガーとお酒が楽しめるフルサービスレストラン	2
ミアクッチーナ	フードコート向けパスタ専門店	1
カフェ 山と海と太陽	バリエーション豊かなドリンクとハンバーガーを提供するカフェ店舗	1
あえん	四季折々の旬菜料理を提供する和風レストラン	6
シェフズブイ	旬の野菜を主役にしたベジタブルレストラン	1
	合計	24

以上の事業活動の結果、その他飲食事業の売上高は14億5百万円(前年同四半期比3.6%増)、セグメント損失(営業損失)は61百万円(前年同四半期比88百万円の損失減)となりました。

<その他の事業>

連結子会社の株式会社エム・エイチ・エスは衛生、株式会社モスクレジットは金融・保険・設備レンタル、株式会社モスシャインはグループ内業務のアウトソーシング等により、主に国内モスバーガー事業やその他飲食事業を支援しております。

これらによるその他の事業の売上高は7億68百万円(前年同四半期比11.9%増)となり、前年同四半期に一時的に減少した設備レンタルに係る費用の増加等により、セグメント利益(営業利益)は3億57百万円(前年同四半期比34.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、以下のとおりであります。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度に比べ67億86百万円増加し、812億66百万円となりました。流動資産は前連結会計年度に比べ50億89百万円増加し、固定資産は16億97百万円増加しております。流動資産が増加した主な理由は、現金及び預金が増加したこと及び季節変動により売上債権、棚卸資産が増加したことによるものであります。固定資産が増加した主な理由は、時価の変動等によって投資有価証券が増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度に比べ24億58百万円増加し、288億47百万円となりました。この増加の主な理由は、クリスマス商戦と年末年始に備えた仕入に係る仕入債務が増加したこと及び、利益の増加に伴い未払法人税等が増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度に比べ43億27百万円増加し、524億19百万円となりました。その結果、自己資本比率は前連結会計年度末64.3%から当第3四半期連結会計期間末は64.2%と0.1%減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、本日(2024年2月9日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,055	20,577
受取手形、売掛金及び契約資産	6,173	8,466
有価証券	521	429
商品及び製品	4,498	5,109
原材料及び貯蔵品	771	566
未収入金	4,251	5,359
その他	506	370
貸倒引当金	△7	△18
流動資産合計	35,771	40,861
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,673	22,603
減価償却累計額	△11,695	△13,774
建物及び構築物（純額）	7,977	8,829
機械装置及び運搬具	295	373
減価償却累計額	△198	△241
機械装置及び運搬具（純額）	96	131
工具、器具及び備品	9,732	10,109
減価償却累計額	△5,721	△6,319
工具、器具及び備品（純額）	4,011	3,790
土地	1,027	1,045
建設仮勘定	175	182
有形固定資産合計	13,289	13,979
無形固定資産		
その他	2,555	2,319
無形固定資産合計	2,555	2,319
投資その他の資産		
投資有価証券	13,300	15,051
長期貸付金	1,501	1,310
差入保証金	5,033	5,179
繰延税金資産	377	137
その他	2,737	2,499
貸倒引当金	△55	△54
投資損失引当金	△31	△16
投資その他の資産合計	22,862	24,105
固定資産合計	38,707	40,404
資産合計	74,479	81,266

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,378	6,816
短期借入金	86	—
リース債務	1,915	2,160
未払金	6,680	6,489
未払法人税等	243	781
賞与引当金	494	252
ポイント引当金	82	86
資産除去債務	38	83
その他	2,602	3,316
流動負債合計	17,521	19,986
固定負債		
長期借入金	3,631	3,084
リース債務	1,973	1,984
繰延税金負債	—	522
役員株式給付引当金	4	7
株式給付引当金	205	210
退職給付に係る負債	387	362
資産除去債務	888	900
その他	1,775	1,788
固定負債合計	8,866	8,860
負債合計	26,388	28,847
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,412	11,412
資本剰余金	11,089	11,057
利益剰余金	24,470	26,699
自己株式	△1,773	△1,755
株主資本合計	45,199	47,414
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,019	2,570
為替換算調整勘定	1,594	2,168
退職給付に係る調整累計額	42	10
その他の包括利益累計額合計	2,656	4,748
非支配株主持分	235	255
純資産合計	48,091	52,419
負債純資産合計	74,479	81,266

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
売上高	64,197	70,550
売上原価	35,071	37,273
売上総利益	29,125	33,277
販売費及び一般管理費	28,199	29,738
営業利益	925	3,538
営業外収益		
受取利息	63	64
受取配当金	80	71
設備賃貸料	181	239
持分法による投資利益	—	69
立退料収入	102	—
雑収入	190	222
営業外収益合計	618	668
営業外費用		
支払利息	82	116
設備賃貸費用	144	161
持分法による投資損失	29	—
雑支出	120	102
営業外費用合計	375	380
経常利益	1,168	3,825
特別利益		
固定資産売却益	118	230
投資有価証券売却益	1	764
助成金収入	438	—
投資損失引当金戻入額	—	0
関係会社清算益	—	27
特別利益合計	558	1,022
特別損失		
固定資産売却損	0	1
固定資産除却損	76	40
減損損失	105	245
投資有価証券評価損	36	32
投資有価証券売却損	0	—
投資損失引当金繰入額	8	—
持分変動損失	1	—
特別損失合計	229	320
税金等調整前四半期純利益	1,497	4,527
法人税、住民税及び事業税	489	1,162
法人税等調整額	109	258
法人税等合計	599	1,421
四半期純利益	897	3,106
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△13	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	911	3,104

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	897	3,106
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	42	1,103
為替換算調整勘定	785	404
退職給付に係る調整額	△12	△26
持分法適用会社に対する持分相当額	137	629
その他の包括利益合計	951	2,110
四半期包括利益	1,849	5,217
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,839	5,197
非支配株主に係る四半期包括利益	10	20

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

従来、所得等に対する法人税、住民税及び事業税等(以下、「法人税等」という。)について、法令に従い算定した額を損益に計上することとしておりましたが、所得に対する法人税等について、その発生源となる取引等に応じて、損益、株主資本及びその他の包括利益に区分して計上することとし、その他の包括利益累計額に計上された法人税等については、当該法人税等が課される原因となる取引等が損益に計上された時点で、これに対応する税額を損益に計上することといたしました。なお、課税の対象となった取引等が、損益に加えて、株主資本又はその他の包括利益に関連しており、かつ、株主資本又はその他の包括利益に対して課された法人税等の金額を算定することが困難である場合には、当該税額を損益に計上しております。

また、親会社の持分変動による差額に係る連結財務諸表固有の一時差異について資本剰余金を相手勘定として繰延税金資産又は繰延税金負債を計上していた場合で、当該子会社等に対する投資を売却するなど、一時差異が解消した際の繰延税金資産又は繰延税金負債の取崩しについて、従来、対応する額を法人税等調整額に計上することとしておりましたが、資本剰余金を相手勘定として取り崩すことといたしました。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減するとともに、対応する金額を資本剰余金又はその他の包括利益累計額のうち、適切な区分に加減し、当該期首から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益が32百万円増加し、資本剰余金が同額減少しております。なお、税金等調整前四半期純利益への影響はありません。また、利益剰余金、資本剰余金及びその他の包括利益累計額の当期首残高への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 モスバーガー 事業	海外事業	その他飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	50,693	11,460	1,356	687	64,197	—	64,197
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	66	21	55	1,028	1,171	△1,171	—
計	50,759	11,482	1,411	1,715	65,368	△1,171	64,197
セグメント利益又は損失(△)	2,420	△157	△149	541	2,655	△1,729	925

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,729百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,693百万円を含んでおります。全社費用の主なもの、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 モスバーガー 事業	海外事業	その他飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	55,802	12,574	1,405	768	70,550	—	70,550
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	117	92	91	1,048	1,350	△1,350	—
計	55,920	12,666	1,497	1,817	71,901	△1,350	70,550
セグメント利益又は損失(△)	4,860	0	△61	357	5,157	△1,618	3,538

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,618百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,585百万円を含んでおります。全社費用の主なもの、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内モスバーガー事業」セグメントにおいて32百万円、「海外事業」セグメントにおいて192百万円、「その他飲食事業」セグメントにおいて20百万円の減損損失を計上しております。